東日本大震災 10 年

あかし testaments　「アーティスト・トーク：北島敬三」

北島敬三　（きたじま・けいぞう, 1954―, 長野県出身東京都在住, 写真家）

40 年以上におよぶ写真家としてのキャリアの中で数々の賞に輝き、海外でも高く評価される日本を代表する写真家の一人。1975 年、「ワークショップ写真学校」森山大道教室に参加して以降、本格的に写真を始める。初期の活動では、都市の街路を行き交う人々を出会いがしらに捕らえたモノクロームのスナップショットが高い評価を得た。80 年代末以降、大判カメラを用いた肖像写真のシリーズ「PORTRAITS」と、日本の地方を巡り、見過ごされ、打ち捨てられた風景を撮影したシリーズ「PLACES」に着手。本展に出品中の「UNTITLED RECORDS」は、「PLACES」を前身として 2012 年から新たに始めたシリーズで、被写体に東日本大震災の被災地を含みながら現在も撮影を継続する。木村伊兵衛写真賞(1983)、伊奈信男賞(2007)、日本写真協会作家賞(2010)、東川賞国内作家賞(2010)。

李静和　（り・じょんふぁ）

韓国・済州島生まれ。1988 年来日。成蹊大学法学部教授。政治思想家。編・著書に『つぶやきの政治思想―求められるまなざし・かなしみへの、そして秘められたものへの』(1998 年・青土社)、『求めの政治学―言葉・這い舞う島』(2004 年・岩波書店)、『残傷の音―「アジア・政治・アート」の未来へ』(2009 年・岩波書店）などがある。

倉石信乃　（くらいし・しの）

長野県生まれ。明治大学大学院理工学研究科教授。1989 年「ユリイカの新人」に選ばれ、以来詩作を発表、また美術・写真批評を手がける。写真批評の著作により、1998 年重森弘淹写真評論賞受賞、2011 年日本写真協会賞学芸賞受賞。著書に『反写真論』(1999 年・河出書房新社)、『スナップショット―写真の輝き』(2010 年・大修館書店)、『孤島論』(2022 年・インスクリプト刊行予定)など。